

2 0 1 9 年 度

# 事 業 報 告 書

自 2 0 1 9 年 4 月 1 日

至 2 0 2 0 年 3 月 3 1 日

公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

## 目 次

I. 海洋センター所在市町村の概要	2
II. 法人の概況	3
1. 設立年月日	3
2. 定款に定める目的	3
3. 定款に定める事業内容	3
4. 所在地	3
5. 基本財産の額	3
6. 行政庁	3
7. 役員に関する事項	3
8. 職員に関する事項	3
III. 管理業務	4
1. 役員及び評議員	4
2. 専門委員	4
3. 会議	4
4. 規程の制定等	6
5. 届出・登記事項	6
6. 事務局	7
IV. 事業の実施状況	8
【公益目的事業】	
1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関する モデル事業	8
2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備	8
3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進	13
4. 誰もが海に親しめる事業の推進	19
5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用	20
6. 全国会議の開催	22
7. B&Gプランの推進に関わる調査研究等の活動	24
8. 広報活動	25
9. 災害等支援事業	26
10. 寄付金等事業	26
【収益事業】	
1. 土地賃貸事業	27
2019年度事業報告における附属明細書	32

## I. 海洋センター所在市町村の概要

### (海洋センター所在市町村の数)

2019年度内に、北海道伊達市の海洋センターが、老朽化により廃止となった。それにより、2020年3月末で、海洋センターの所在市町村数は216市・159町・13村で388自治体、海洋センター数は469カ所となった。

### (青少年健全育成推進5ヵ年計画)

2019年度は、時代の変化への対応とB&G財団の変革を目指し、2015年度から新たに掲げた「青少年健全育成推進5ヵ年計画」の最終年度である。

「子どもたちの生きる力の育成」「自然体験活動の拠点整備と推進」「海洋センターの新たな活用と活性化」「海への理解促進」を4つのビジョンとし、従来の概念にとらわれないことなく、既存事業の見直しと延べ20を超える新規事業を展開した。

計画最終年の数値目標である「海洋レクリエーション体験者：100万人」「地域指導者会の設置；100%」「水辺の安全教室の実施：10万人」は早期に目標を達成している。また、「海洋センター利用者：年間1,250万人」は、3月に「新型コロナウイルス」により約半数の海洋センターが休館となる状況となったが、概ね達成の見込みである。

「5ヵ年計画」の推進・浸透により、全国の「海洋センター」では、従来のスポーツ利用以外にも学習・趣味・子育て支援など多様な取り組みが展開され、新たな地域コミュニティの場として活用されている。

全国の自治体が推進する「公共施設総合整備計画」により、年数の経過した公共施設の多くが統廃合の対象となるなか、大多数の「海洋センター」が継続活用施設と判断されていることは、「本計画」推進の大きな成果と言える。

### (海洋センター及び所在自治体との連携)

引き続き「B&G全国サミット」「B&G全国教育長会議」には、例年を上回る多くの市・町・村長、教育長などが参加するとともに、「B&Gセンター・インストラクター養成研修」「指導員研修会」も定員を上回る参加者が集まっている。首長・教育長・B&G指導者など、様々な立場の関係者と意見交換や共同事業などを行うことで、自治体と財団とは強い信頼関係を築いている。

また、去年は複数の台風により、広範囲の自治体に大きな災害が生じているが、多くのB&G関係者から、速やかに災害への支援金が寄せられるなど、全国のB&Gネットワークの結びつきも一層強固となっている。

## II. 法人の概況

### 1. 設立年月日 1973年（昭和48年）3月28日

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い、2012年3月21日付で内閣総理大臣より公益財団法人への移行認定を受け、2012年4月1日付で公益財団法人となった。

### 2. 定款に定める目的

この法人は、わが国の青い海と緑の大地を実践の場とし、主として海洋性レクリエーション事業を軸とした青少年の健全育成、身体活動を通じた幼児から高齢者までの心身の健康づくり、水の安全教育と海事知識並びに環境保全の普及・啓発等、公益の増進を図る事業の振興に寄与し、海洋国日本の発展に資することを目的とする。

### 3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成に関する事業
- (2) 幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業
- (3) 水の安全教育と海事知識の普及・啓発に関する事業
- (4) 国際交流と環境保全を推進する事業
- (5) 指導者養成に関する事業
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 4. 所在地 東京都港区虎ノ門3-4-10（虎ノ門35森ビル9F）

### 5. 基本財産の額（円）

取得価額	時価評価額	差異
6,560,000,000	7,557,573,500	997,573,500

※時価評価額については、2020年3月31日現在の有価証券の評価益を含んだ額である。

### 6. 行政庁 内閣府

### 7. 役員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の1. 役員（理事・監事）及び評議員を参照

### 8. 職員に関する事項

Ⅲ. 管理業務の6. 事務局を参照

### Ⅲ. 管理業務

#### 1. 役員（理事・監事）及び評議員

##### (1) 役員

2020年3月31日現在の役員は、別表1「役員名簿」（28頁）のとおり、理事8名（会長1名、理事長1名、常務理事1名、理事5名）、監事2名である。

2019年度における役員の異動は次のとおりである。

2019年6月26日付第16回評議員会にて理事及び監事の選任が行われ、理事8名（前田康吉氏・菅原悟志氏・古山透氏・佐野慎輔氏・中江有里氏・中村真衣氏は再任、青山節児氏・中逸博光氏は新任）、監事2名（大藪卓也氏・西本克己氏は再任）が就任した。

なお、山中健理事、岡田高大理事は同日付で退任となった。

また、同年6月26日付第27回理事会にて代表理事、業務執行理事が選定され、下記のとおり就任した。

代表理事 会長 前田康吉（再任）

代表理事 理事長 菅原悟志（再任）

業務執行理事 常務理事 古山透（再任）

##### (2) 評議員

2020年3月31日現在の評議員は、別表2「評議員名簿」（29頁）のとおりで6名である。

#### 2. 専門委員（海洋センター施設整備委員）

2020年3月31日現在における専門委員は、別表3「専門委員名簿」（30頁）のとおり6名である。

2019年度における専門委員の異動は次のとおりである。

2019年10月1日付で6名（岩崎恭子氏・小林元一氏・田久保雅己氏・田村祐司氏・吉田義朗氏は再任、遠藤聡氏は新任）が就任した。

なお、野本昇氏・藤本逸朗氏は退任となった。

#### 3. 会議

##### (1) 理事会

###### ①第26回理事会

ア. 時期：2019年6月10日（月）15時50分

イ. 場所：B&G財団会議室（東京都港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 2018年度事業報告及び附属明細書の承認に関する件

第2号議案 2018年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）  
及び附属明細書並びに財産目録の承認に関する件

第 3 号議案 2019 年度事業計画書及び収支予算書の一部変更の承認に関する件

第 4 号議案 第 16 回評議員会招集に関する件

## ②第 27 回理事会

ア. 時 期：2019 年 6 月 26 日（水）16 時 20 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 会長、理事長及び常務理事の選定に関する件

第 2 号議案 決議の省略の方法による第 17 回評議員会の開催に関する件

## ③第 28 回理事会

ア. 時 期：2019 年 10 月 24 日（木）15 時 52 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2020 年度日本財団助成申請事業の承認に関する件

第 2 号議案 諸規程の制定等に関する件

第 3 号議案 海洋センターの廃止に関する件

第 4 号議案 決議の省略の方法による第 18 回評議員会の開催に関する件

## ③第 29 回理事会

ア. 時 期：2020 年 3 月 5 日（木）16 時 00 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第 1 号議案 2019 年度収支予算書の一部変更の承認に関する件

第 2 号議案 2020 年度事業計画書及び収支予算書の承認に関する件

第 3 号議案 評議員選任委員会運営規程の制定に関する件

第 4 号議案 評議員選任委員会委員の選任に関する件

第 5 号議案 休眠預金を活用した体験格差解消事業に係る実行団体の選定に関する件

## (2) 評議員会

### ①第 16 回評議員会

ア. 時 期：2019 年 6 月 26 日（水）14 時 00 分

イ. 場 所：B & G 財団会議室（東京都 港区）

ウ. 報告事項：2018 年度事業報告の件、他

エ. 決議事項：

第 1 号議案 2018 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び

財産目録の承認に関する件  
第2号議案 理事及び監事の選任に関する件

②第17回評議員会（書面決議による）

ア. 評議員会の決議があったものとみなされた日：2019年6月28日

イ. 決議事項：

第1号議案 常勤理事の報酬に関する件

②第18回評議員会（書面決議による）

ア. 評議員会の決議があったものとみなされた日：2019年12月16日

イ. 決議事項：

第1号議案 定款の一部変更に関する件

(3) 専門委員会（海洋センター施設整備委員会）

①第22回海洋センター施設整備委員会

ア. 時 期：2019年10月9日（水）16時00分

イ. 場 所：B&G財団会議室（東京都 港区）

ウ. 決議事項：

第1号議案 委員長及び副委員長の選任に関する件

第2号議案 2020年度「地域海洋センター修繕助成」に関する件

第3号議案 地域海洋センターの廃止に関する件

4. 規程の制定等

(1) 制定した規程

- ・先進的海洋センター整備等事業基金規程
- ・評議員選任委員会運営規程

(2) 一部改正した規程

- ・定款
- ・旅費規程
- ・経理規程

5. 届出・登記事項

(1) 内閣府への届出

- ・2018年度事業報告等の提出
- ・理事、監事の選任に係る変更届出
- ・定款の一部変更に係る変更届出
- ・事業に係る変更届出

- ・ 2020 年度「事業計画書等」の提出

(2) 登記事項

- ・ 理事・監事、代表理事に係る登記

6. 事務局

(1) 機構

2020 年 3 月 31 日現在における事務局の機構は、別表 4 (31 頁) のとおり、3 部 6 課である。

(2) 人員

職員は 2 名が定年退職した。契約職員は 4 名採用し雇用期間満了等により 3 名が退職した。これにより、2020 年 3 月 31 日現在における職員は 26 名、契約職員は 3 名となった。



## IV. 事業の実施状況

### 【公益目的事業】

#### 1. 海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業

海洋センター施設を多機能化することにより、従来の「スポーツ振興の場」に止まらず、地域住民が気軽に集える交流の場としてシフトすることにより、地域住民のコミュニティ拠点とすることを目的に実施。

2018年から3ヵ年、大分県竹田市と締結した連携協力の協定に基づき海洋センター施設の改修を行うとともに、地域住民や観光誘客に向けた健康づくりプログラムの策定・実施への支援を行っている。

##### (1) 地域資源を利用した海洋センターの新たな活用

改修された海洋センター施設を中核に、施設運営と各種教室の実施、地域住民の健康づくり、観光プログラムの策定と提供など、各行政部門や民間の指導者団体の横断的な協力体制構築を進め、地域資源（温泉）と海洋センター施設を活用した地域住民・観光客などへの「健康づくりプログラム」の提供を開始した。

時 期：通年

場 所：大分県竹田市

内 容：体育館と地域資源（温泉等）の連携事業  
健康づくり拠点事業  
コミュニティ活性化事業

利用者人数：18,996名

#### 2. 海洋センター・海洋クラブの施設整備

※日本財団助成事業

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則A評価以上で施設の機能保全及び機能向上（バリアフリー化等）を図る修繕と、自然災害（台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕に対し助成金の交付を行った。

また、ボートレースの収益金が広く有効に活用されていることを、当該市町村をはじめ地域住民に周知するため、修繕助成決定書授与式を実施するとともに、修繕工事後に行われているリニューアルオープン式典へも出席し、自治体執行部はじめ、議会関係者、多くの地域住民に更なる利用を促した。

##### (1) 修繕助成金の交付

###### ①通常修繕

通常修繕として助成を決定した32海洋センター32施設に対し、511,700,000円を助成し、バリアフリー化をはじめ、屋根・外壁の全面改修や設備更新など、施設の機能向上を図った。

◆通常修繕交付一覧

No	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	助成金額（円）
1	北海道	大空町東藻琴	プール	上屋シート取替え	5,000,000
2	北海道	秩父別町	プール	壁・鉄骨塗装、屋根・外壁塗装・ろ過機他取替、シート取替他	13,500,000
3	宮城県	大崎市松山	プール	上屋シート取替、鉄骨改修、缶体漏水修繕と塗装、幼児用プール改修、プールサイド平板ブロックの改修、照明 LED 化、換気窓設置	25,300,000
4	福島県	塙町	プール	昇温設備工事、ろ過改修、プールサイド改修、照明 LED 化、管理棟内部改修、管理棟外壁改修、プール上屋塗装改修工事他	23,700,000
5	茨城県	五霞町	体育館	屋根及び外壁改修、給排水管改修、アリーナ改修、トイレ改修、ミーティングルーム改修工事	30,000,000
6	群馬県	明和町	プール	遠赤外線暖房機交換	4,300,000
7	千葉県	いすみ市	体育館	ミーティングルーム・ロビー改修、屋根改修、サッシ廻り改修、内装改修、バスケットゴール耐震改修、照明 LED 化、防球柵落下防止対策改修、換気扇更新 他	22,300,000
8	富山県	富山市八尾	プール	多目的ホールの増築、缶体塗装、ボイラー設備取替	22,800,000
9	石川県	穴水町	艇庫	屋根全面張り替え及び外壁改修	10,000,000
10	福井県	越前町朝日	体育館	事務室棟防水工事、トイレ洋式化、支柱基礎工事、アリーナ床塗装	15,100,000
11	岐阜県	富加町	プール	缶体塗装、換気扇改修、上屋シート補修	5,100,000
12	岐阜県	川辺町	プール	缶体塗装、照明 LED 化、通路棟上屋シート張り替え	8,200,000
13	岐阜県	中津川市福岡	体育館	ミーティングルーム改修、屋根・天井改修、床材張替、照明 LED 化他	26,000,000
14	静岡県	川根本町本川根	体育館	ロビー、廊下、ミーティングルーム、空調機設置（ミーティングルーム）、アリーナ照明改修	11,000,000

15	愛知県	豊川市小坂井	プール	屋根・外壁改修、タイル補修、窓シーリングの打ちかえ、空調機器更新	30,000,000
16	三重県	大台町	艇庫	多目的スペースの設置、屋根改修、外壁塗装、シャッター取替、艇格納ラック改修、トイレ改修、管理室・休憩室改修、その他	10,000,000
17	三重県	いなべ市大安	体育館	屋根改修 他	13,000,000
18	大阪府	千早赤阪村	体育館	空調設置、トレーニングルームの可動間仕切り新設、屋根改修他	30,000,000
19	兵庫県	上郡町	体育館	照明 LED 化、トイレの洋式化	6,500,000
20	兵庫県	丹波篠山市	体育館	壁・天井改修、外壁改修、スロープ設置、多目的トイレ設置、照明 LED 化、玄関ホールの空調設備、シャワー室給湯設備他	18,600,000
21	和歌山県	串本町	プール	ガラス壁コーキング修復、照明 LED 化、ろ過設備改修、ジャクジー改修、空調和換気設備工事 他	16,900,000
22	広島県	北広島町芸北	体育館	ミーティングルームを児童クラブ運営施設として使用するための改装、トイレ、更衣室、シャワー室等改修、照明 LED 化	7,100,000
23	広島県	尾道市向島	体育館	屋根防水工事	15,200,000
24	広島県	安芸高田市高宮	体育館	屋根改修、外壁改修、2階アリーナトレーニングスペースの設置	15,300,000
25	徳島県	美波町由岐	体育館	屋根改修、更衣室及びミーティングルーム空調器更新、1階ホール空調器更新、2階トレーニングルーム空調器新設	25,900,000
26	愛媛県	松山市中島	体育館	外壁改修	12,600,000
27	佐賀県	太良町	体育館	照明 LED 化	5,100,000
28	長崎県	平戸市生月	体育館	屋根改修工事、アリーナ換気設備改修工事、タラップ改修工事 他	21,300,000
29	熊本県	南関町	体育館	屋根改修	25,600,000

30	熊本県	湯前町	プール	缶体改修・トイレ洋式化・照明 LED 化・スロープ修繕・避雷ユニット設置	13,500,000
31	熊本県	美里町砥用	プール	プールサイド改修	5,300,000
32	大分県	杵築市	体育館	屋根改修、照明 LED 化	17,500,000
<b>32 センター・32 施設</b>					<b>511,700,000</b>

## ②特別施設整備

1 海洋センター1 施設に対し、30,000,000 円を助成し、モデルとしての次世代型の艇庫への改修を進めた。

### ◆特別施設整備交付一覧

No	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	助成金額 (円)
1	宮城県	加美町中新田	艇庫	事務室・会議室及びトレーニングルーム増築、障害者用シャワー室・多目的トイレへの改修	30,000,000
1 センター1 施設					30,000,000

## ③災害復旧修繕

2019 年に発生した台風 15 号等で被災した 6 海洋センター6 施設に対し、12,000,000 円を助成し、復旧を図った。

### ◆災害復旧修繕交付一覧

No.	道府県名	センター名	施設名	助成金額(円)
1	千葉県	鋸南町	プール	5,400,000
2	愛媛県	今治市朝倉	プール	2,600,000
3	大分県	中津市耶馬溪	プール	500,000
4	熊本県	菊池市泗水	プール	500,000
5	鹿児島県	薩摩川内市上甕	プール	2,000,000
6	宮城県	蔵王町	プール	1,000,000
<b>6 センター6 施設</b>				<b>12,000,000</b>

## (2) 舟艇器材の配備

### ①舟艇器材追加・再配備

申請のあった30海洋センター・10クラブの活動状況等審査を行った結果、18海洋センター・7海洋クラブに対し、救助艇やライフジャケットをはじめ、活動に必要な舟艇等器材を配備した。

対 象：18海洋センター・7海洋クラブ

配備金額：15,781,507円

### ②新規海洋クラブ登録及び舟艇器材配備

新規海洋クラブとして登録を行った5海洋クラブに対して、カヌーや救助艇ライフジャケットなど、活動に係る器材を配備した・

新規クラブ：B & G 南部町名川海洋クラブ（青森県）

B & G 上松海洋クラブ（長野県）

B & G 牟岐海洋クラブ（徳島県）

B & G 日向市サーフィン海洋クラブ（宮崎県）

B & G アマニコ海洋クラブ（鹿児島県）

配備金額：8,068,249円

## (3) 修繕確認等

### ①決定書授与式

ボートレースの収益金の有効活用について、広く住民に周知することを目的に「決定書授与式」を開催し、自治体執行部へ完成後の更なる利用促進と事業展開を要請した。

時 期：通年

対 象：29自治体（修繕助成金額約1,000万円以上）

### ②リニューアルオープン式典

完成後に開催される「リニューアルオープン式典」に出席し、式典に出席した自治体執行部や議会関係者、地域住民に今後の利用促進をPRするとともに、修繕工事の完了確認を行った。

時 期：通年

対 象：14センター

### ③海洋センター・海洋クラブの現状調査

海洋センター・海洋クラブの現状調査を実施し、運営状況や問題点などの確認を行った。

時 期：通年

対 象：53海洋センター・6海洋クラブ

内 容：市町村長や教育長等との面談、海洋センターの管理・運営状況・問題点等の確認

#### ④海洋センター・海洋クラブの評価

海洋センター、海洋クラブの更なる利用促進を図るため、活動状況や運営状況等に基づく評価を行い公表した。

##### ◆評価別 海洋センター数

特A	A	B	C	D	E
306	84	63	11	0	2

##### ◆評価別 海洋クラブ数

特A	A	B	C	D	E
39	50	90	27	16	41

#### ⑤優良海洋センターの表彰

海洋センター評価に基づき、A評価以上の優良海洋センターを代表し、10年連続特A評価の24センターを「第12回B&G全国サミット」において表彰した。

時 期：2020年1月21日（火）

場 所：笹川記念会館

対 象：特A評価306、A評価84 計390センター

### 3. 海洋センター・海洋クラブの活性化事業の推進

防災や子育て支援、体験格差の解消など、既存のスポーツに留まらない多様性のある事業を推進し、その取組などを広く情報発信することにより、海洋センター・海洋クラブの活性化を図った。

#### (1) 海洋センター防災教室の実施

※日本財団助成事業

防災教材を作成し、全国の海洋センターで防災教室等を展開することで、地域住民の防災意識の向上を図ると共に、地域防災拠点としての機能を高めた。

時 期：通年

場 所：全国の海洋センター等266カ所

参加者：8,100名

#### (2) ネットワークを活用した地域情報の共有と発信

※日本財団助成事業

海洋センター・クラブの活動情報等を、ブロック毎に開設したSNSやB&G財団公式HPで海洋センター・クラブ担当者が自ら発信すると共に、ニュース性の高い話題は財団が記事化して発信し、地域情報の共有と発信を行った。

①公式サイトでの地域情報発信 616記事 25.2万PV

No.	コンテンツ	投稿数	P V
1	行こうよ 海洋センターへ!	58	40,667
2	イベント・教室情報	548	209,803
3	B&Gヘッドラインニュース	10	1,671
	計	616	252,141

②SNSを活用した地域情報発信 1,504記事 31.2万PV

No.	コンテンツ	投稿数	リーチ数
1	Facebook「まちレポ」	1,240	134,550
2	Instagram「アンドリーくん 日本一周ひとり旅～ぬい撮りの旅～」	203	48,963
3	Youtube「B&Gチャンネル」	61	129,462 ※視聴回数
	計	1,504	312,975

(3) 体験格差解消を目指す水辺の自然体験の推進

①障害児や児童養護施設の子供を対象とした水辺の自然体験の実施

※日本財団助成事業

障害児や児童養護施設の子供など、身体的・家庭的な理由等により体験格差が生じている子供を対象に、水辺の自然体験会を実施した。

時 期：2019年6月～10月

場 所：海洋センター・海洋クラブ 30 ヶ所

参加者：2,324名

内 容：水辺の自然体験会実施および水辺のレクリエーション器材配備

②児童養護施設の子供を対象とした水辺の自然体験の実施

※ノエビアグリーン財団助成事業

児童養護施設の子供を対象に水辺の自然体験会を実施した。

時 期：2019年7月～9月

場 所：海洋センター11 ヶ所

参加者：476名

内 容：水辺の自然体験会実施、実施経費支援およびライフジャケット配備

③障害児等の体験格差解消事業

※休眠預金等交付金事業

休眠預金制度を活用し、障害児等の体験格差解消を推進するため、実行団体となる10団体を選定した。

・実行団体選定経緯

- ・実行団体の公募：2020年1月（申請数 21 団体）
- ・実行団体選定委員会の開催：2020年2月
- ・実行団体の選定：2020年3月（第 29 回理事会）

※当財団は「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づく「資金分配団体」に決定（2019年11月）

・実行団体

	都道府県	団体名
1	宮城県	宮城県障がい者カヌー協会
2	茨城県	龍ヶ崎市 B&G USC 海洋クラブ
3	神奈川県	認定 NPO 法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター
4	神奈川県	認定 NPO 法人 Ocean's Love
5	長野県	公益財団法人身体教育医学研究所
6	静岡県	有限会社 SHIPMAN
7	三重県	NPO 法人海の達人
8	山口県	株式会社 FEEL
9	山口県	NPO 法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブ
10	福岡県	NPO 法人あそびとまなび研究所

（4）学習と体験活動による子育て支援

※日本財団助成事業

夏休みや冬休みなどの子育て支援の一環として、教員や学生等の地域人材を活用し、宿題などの学習と体験活動が両立する子供の居場所「BG塾」を実施した。

時 期：夏休みおよび冬休みの 5 日間

場 所：海洋センター60カ所（新規 30カ所、継続 30カ所）

参加者：小学生等 6,336名

内 容：学習と体験活動が両立する「BG塾」の開催、開催経費支援および優良海洋センター表彰（5カ所）

（5）「B & G全国ジュニア水泳競技大会」の実施

海洋センター・海洋クラブで日頃から水泳を練習している小中学生と障害児を対象に、成果発表の場を提供するとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害の有無にかかわらず分け隔てない参加が可能な競技大会を実施した。

時 期：2019年8月17日（土）

場 所：東京辰巳国際水泳場

参加者：617名（うち障害児12名）

※指導者・保護者等を含む総入場者数 約1,500名

参加チーム：全国27都道府県 73海洋センター・2団体



## (6) 「障害者と健常者のヨット大会」の実施

障害者と健常者がともに練習に励み競い合う環境をつくることで、相互理解の促進を図ることを目的に、障害の有無にかかわらず誰もが参加できるヨット大会や、マリンスポーツ等の体験会・ヨット教室を実施した。

時 期：2019年7月14日（日）～15日（祝）：大会

2019年7月6日・7日、8月3日、10日：体験会・教室

場 所：北浜ヨットハーバー・北浜公園（大分県別府市）

参加者：53名（うち障害者1名）：大会

236名（うち障害者29名）：体験会・教室

## (7) 「第三の居場所」設置運営支援 ※日本財団助成事業

様々な困難な状況にある子供たちの放課後や夏休み等の支援として、「第三の居場所」拠点整備や運営に係る支援を行った。

### ①開設費助成

6自治体6拠点に対し、拠点整備費や備品購入費等の開設助成金を交付・決定した。

	拠点	開設助成金決定額
1	北海道積丹町	40,000,000円
2	新潟県燕市	30,000,000円
3	岡山県備前市	36,190,000円
4	岡山県美作市	30,000,000円
5	岡山県奈義町	30,000,000円
6	京都府南丹市	30,000,000円
合 計		196,190,000円

### ②運営費助成

8自治体9拠点に対し、学習・生活支援費、体験活動費、スタッフ人件費等の運営助成金を交付・決定した。

	拠点	運営助成金決定額
1	北海道東神楽町（中央）	10,770,000円
2	北海道東神楽町（東聖・ひじり野）	10,000,000円
3	茨城県笠間市	19,000,000円
4	埼玉県嵐山町	13,750,000円
5	新潟県胎内市	10,000,000円
6	石川県穴水町	10,000,000円
7	長野県大町市	10,000,000円
8	島根県雲南市	14,690,000円

9	大分県杵築市	10,000,000円
合 計		108,210,000円

### ③研修会の開催

- ・キックオフ研修会

時 期：2019年6月11日（火）～12日（水）

場 所：埼玉県嵐山町「国立女性教育会館」

参加者：第2期拠点開設自治体担当者、拠点マネージャー等 11名

内 容：事業説明、ワークショップ、事例発表（尾道拠点・嵐山拠点）、嵐山拠点見学等

- ・拠点スタッフ現場研修

時 期：2019年5月～7月（3日間）

場 所：既設拠点2カ所

参加者：1自治体2拠点の運営スタッフ 2名

内 容：拠点運営の実務、子供との接し方に関する指導実習等

- ・フォローアップ研修会

時 期：2019年12月19日（木）～20日（金）

場 所：日本財団ビル

参加者：運営開始済拠点の自治体担当者、拠点マネージャー等 20名

内 容：拠点進捗報告、ワークショップ、事例発表（雲南拠点・大町拠点・杵築拠点）、外部講師による講演等

### ④協定書調印式・内覧会の実施

	拠点	開設日	実施日	場所
1	茨城県笠間市	4月6日	6月14日	笠間市役所
2	埼玉県嵐山町	4月1日	4月22日	嵐山町役場
3	新潟県胎内市	4月1日	4月24日	胎内市役所
4	島根県雲南市	4月11日	4月9日	雲南市加茂文化ホール
5	北海道東神楽町(中央)	7月1日	7月12日	東神楽町総合体育館
6	北海道東神楽町(東聖・ひじり野)	8月1日		
7	長野県大町市	6月1日	6月20日	大町市役所
8	石川県穴水町	7月1日	8月1日	第三の居場所穴水拠点

### ⑤助成決定書授与式の実施

時 期：2019年9月～2020年3月

場 所：開設費助成が決定した5自治体5拠点

**(8) パラスポーツ応援センター推進事業**

※日本財団助成事業

海洋センターを誰もが利用しやすい施設へと近づけるため、障害者や介助者へのヒアリングを実施し、それらに基づき、施設のバリアフリー化とパラスポーツ・レクリエーション器材の配備を実施した。配備品を活用して障害者も健常者も参加できるPRイベントや周知活動等を行い、インクルーシブな取組みを促進した。

時 期：2019年6月～2020年3月

場 所：北海道滝川市（艇庫）

静岡県浜松市三ヶ日（プール）

熊本県玉名市岱明（体育館）

参加者：1,653名（障害者）

**(9) B&G 巡回写真展「スポーツのチカラ」の実施**

※東京2020応援プログラム

海洋センター所在自治体において、B&Gにゆかりのあるアスリート等の写真展と同時開催事業（パラリンピックやパラスポーツ、障害者への理解促進につながるもの）を実施することで、地域において、オリンピックやパラリンピックへの機運醸成を図るとともに、インクルーシブな取組を促進した。

時 期：通年

場 所：31 海洋センター

来場者数：45,139名

**(10) 東京の運河でカヌーツーリングとクリーン活動**

※日本財団助成事業

※東京2020応援プログラム

2020オリンピック・パラリンピックを見据えて、都内運河でカヌーツーリングをしながら、クリーン活動を行い、環境美化を通じたオリンピック・パラリンピックの機運を高めるとともに、都内での自然体験機会を提供した。

時 期：2019年10月6日

場 所：都内運河

参加人数：233名

参加艇数：カヌー196艇

**(11) 次世代型海洋センター艇庫の先進的活用**

※日本財団助成事業

各種団体と連携し、パラスポーツ愛好者や海水浴客などを巻き込みながら、多様な活動の機会を創出することで、艇庫活動の活性化を図った。

①宮城県加美町

パラカヌーの拠点化を目指した体験会やパラスポーツの啓発イベント等を実施するとともに、障害者の受け入れに対応した指導者を育成した。

時 期：2019年9月14日（土）：イベント  
 2019年9月22日（土）、11月16日（土）：講習会、体験会  
 参加者数：988名（うち障害者27名）：イベント  
 26名：講習会、41名：体験会（うち障害者7名）

②徳島県阿南市

各種団体と連携し、海だけでなく周辺環境を活用したイベントや艇庫を活用した海  
 の環境学習教室や科学実験教室などを年間通して定期的に開催した。

時 期：2019年8月4日（日）、2019年11月2日（土）  
 参加者数：1,562名

4. 誰もが海に親しめる事業の推進

※日本財団助成事業

海離れが進み、海への興味・関心が薄れている昨今、「海の日」制定の意義をはじめ海洋に関する国民の理解と関心を深めるため、海洋性レクリエーション体験や水辺の安全学習等、誰もが海に親しめる事業の推進を図った。

(1) 学校・地域と連携した「海の日」と「海の安全」を学ぶ教室の開催

海洋センター・海洋クラブの協力を得て、水辺の安全教室を全国で実施し、海の日と海の安全について学ぶ機会を提供した。

また、学校の教員に対し、海の日と海の安全に対する理解促進や実技プログラム指導法の伝達を目的とする「教員研修」を提供した。

時 期：通年

場 所：全国の小中学校プール、海洋センター・海洋クラブ等

実施校数：（児童生徒向け実技教室等）全国の小中学校等：1073校

（教員研修への参加）全国の小中学校等：72校

参加者：217,380名（小中学生、教員、地域住民など）

(2) 「海の日」に関するイベントの開催

「海の日」と「海の安全」への理解を深める機会をより多くの人に提供するため、海に入らなくても水着にならなくても楽しめるビーチイベント「砂 ASOBeach（すなあそびーち）」を海洋センター所在市町村等11カ所で実施し、延べ4,958名が参加した。

① 新規開催地

No	開催地	日程	会場	参加者数
1	石川県志賀町	8月10日（土）	増穂浦海岸	321名
2	兵庫県神戸市	8月24日（土）	須磨海水浴場	391名
3	広島県呉市	7月14日（日）	県民の浜	562名

4	福岡県宗像市	7月28日（日）	神湊海水浴場	656名
5	宮崎県宮崎市	9月7日（土）	青島ビーチ	802名
小 計				2,732名

## ② 継続開催地（2017年度～）

No	開催地	日程	会場	参加者数
1	北海道苫前町	7月28日（日）	とままえ夕陽ヶ丘ホワイトビーチ	364名
2	岩手県洋野町	7月14日（日）	洋野町種市海洋センター艇庫前	225名
3	千葉県御宿町	10月17日（木）	御宿町中央海水浴場	32名
4	静岡県牧之原市	8月3日（土）	地頭方海水浴場	283名
5	兵庫県香美町	7月20日（土）	香住浜海水浴場	298名
6	徳島県阿南市	8月4日（日）	北の脇海水浴場	1,024名
小 計				2,226名

### （3）海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動

海洋性レクリエーションと密接に関わる水辺の環境保全、特に海洋ごみに関する知識・意識の向上を図ることを目的に、水辺等での清掃活動を開催した。

時 期：通年

※5月25日～6月9日は海ごみゼロウィーク（強化期間）として実施

場 所：全国の海洋センター・海洋クラブ所在市町村

参加者：62センター・16クラブ 13,758名（海ごみゼロウィーク）

154センター・29クラブ 30,781名（通年）

## 5. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用

海洋センター・海洋クラブにおいて、青少年の健全育成や地域住民の健康増進を担う「センター・インストラクター」等の各種B&G指導員を養成するとともに、研修会・会議の開催や「学生ボランティア」の養成を通して、全国・地域指導者会の活動促進を図り、地域の活性化に貢献した。

### （1）海洋性レクリエーション指導員の養成

海洋性レクリエーションおよび水泳に係わる総合的な知識・技能・指導法ならびに安全管理を中心とした研修を実施し、財団概要、海洋性レクリエーションと水泳の理論・実技、安全管理、施設の管理運営、財団が推進する事業（水辺の安全教室、障害者への理解促進）等を習得したB&G指導員を養成した。

①センター・インストラクター養成研修

※日本財団助成事業

時 期：2019年6月2日（日）～7月4日（木）33日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリンピアザ オキナワ）

参加人数：81名

②大学等と連携した人材育成

財団と大学が連携し、地域海洋センター等で水辺の安全教室や海洋性レクリエーション体験で活躍する人材（ボランティア指導者）を育成するため、学生を対象に指導員資格プログラムを活用した研修会を開催し、あわせて実践活動の場を提供した。

a. 大正大学

2015年6月に大正大学と締結した実習に関する協定に基づき、学生を対象にフィールドワーク実習を実施した。

時 期：2019年5月13日（月）・20日（月）

場 所：大正大学構内

参加者：人間学部 1年生 56名

内 容：集団行動法・CPR・AED・水辺の安全教育

b. 武蔵丘短期大学

2017年6月に武蔵丘短期大学、大学立地の埼玉県吉見町（海洋センター所在自治体）、財団の三者により、スポーツの振興や人材の育成等を目的とした地域連携協約を締結した。この協約に基づき、財団職員による学生を対象とした水辺の安全教育の授業を行うとともに、受講した学生が吉見町の児童等を対象に水辺の安全教室や水泳教室などで指導補助を行った。

日 程：2019年7月6日（土）

場 所：武蔵丘短期大学 吉見キャンパス

参加者：健康生活学科 1年生 67名

内 容：財団事業説明、水辺の安全教育と指導法

③指導員研修会

海洋性レクリエーションに関するプログラムほか、安全管理や社会の変化に即した指導法、優良海洋センターの活動事例等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図るとともに指導員間のネットワークの強化を図った。

時 期：2020年1月30日（木）～31日（金）

場 所：日本財団ビル（東京都港区）

参加者：213名

## (2) 指導者会の活動促進

※日本財団助成事業

地域指導者会の活動の活性化と指導者の資質向上を図るため、ブロック別指導員研修会への支援を行う。また、2019年度からスタートした全国指導者会の3年間の運営方針に基づく活動活性化策を協議するため、正副会長会議およびブロック責任者会議を実施した。

### ①ブロック別指導員研修会への支援

全国10ブロックにおいて、「自然体験活動を推進するためのノウハウを学ぶ」をテーマに、ブロック別指導員研修会を開催。指導員の資質向上が図られるとともに、研修会開催費用の一部を助成した。

時 期：2019年4月26日（金）～12月5日（木）

実施回数：全国10ブロック幹事市町村等 21回

### ②正副会長会議、ブロック責任者会議の開催

全国指導者会の「正副会長会議」を2回、「ブロック責任者会議」を1回開催。

2019年度からの3年間の活動方針・活動目標に基づき、ブロック総会での内容伝達や目標達成に向けた現状の把握、次年度の活動計画・予算について意見交換等を行い、具体的な計画を策定した。

### ③指導者会の活性化支援

全国指導者会ブロック責任者らによる審査に基づき、「全国指導者会 会長賞」として、優良地域指導者会10団体を決定した。

### ④地域指導者会と連携した学生ボランティアの育成

地域指導者会と連携して、学生ボランティアの養成を行ったことにより、海洋性レクリエーション活動をはじめとする事業の運営補助をしてもらえるようになり、より安全に事業実施ができる体制が整った。

時 期：2019年5月～2020年2月

場 所：10カ所

(海洋センター5カ所、海洋クラブ2カ所、県連絡協議会3カ所)

参加者：大学生・短大生・大学院生・専門学校生・高校生 154名

内 容：財団事業概要、海洋性レクリエーションの理論・実技等

## 6. 全国会議の開催

※日本財団助成事業

海洋センター所在市町村の首長・教育長をはじめ、海洋センター・海洋クラブ関係者を対象に、財団事業の周知、関係者との意見交換等を目的とした各種会議を開催し、人的ネットワークの強化を図った。

## (1) 第12回「B&G全国サミット」

「地域力の向上に向けて ～環境・防災・コミュニティ～」をテーマに、日本財団 笹川 陽平 会長による特別基調講演をはじめ、先進事例紹介として3自治体の首長によるパネルディスカッション等を実施した。

時 期：2020年1月21日（火）

場 所：笹川記念会館

対 象：海洋センター所在市町村長・教育長 等

出席者：848名

主な内容：

- ・オープニング 「復興への願いを込めて」  
栃木県立烏山高等学校 吹奏楽部
- ・日本財団笹川会長の基調講演 「世界から見た日本」
- ・「B&G全国サミット」会長の選任
- ・第16回「B&G全国教育長会議」の報告
- ・第4回B&G全国指導者会総会の報告
- ・パネルディスカッション「地域力を活かしたまちづくり」
- ・財団事業説明
- ・共同宣言
- ・優良海洋センターの表彰等

### ◆全国サミット出席者内訳

区分	役職等	出席者人数
海洋センター関係	首長	248名
	副首長	42名
	教育長	203名
	代理等	280名
来賓	財団理事・評議員・関連団体	25名
報道	報道関係	50名
合 計		848名

## (2) 第16回B&G全国教育長会議

「これからの時代の生きる力を育む～より効果的な学びを提供するために～」をテーマに、東京都千代田区立麹町中学校校長の工藤勇一氏による講演「学校教育を本質から問い直す」や東北大学加齢医学研究所教授の瀧 靖之氏による講演「子供達の健やかな脳発達のために～アウトドア育脳のすすめ～」をはじめ、出席の教育長による事例発表等を実施した。



- 時 期：2019年11月6日（水）～7（木）
- 場 所：日本財団ビル
- 対 象：海洋センター道府県連絡協議会から推薦された教育長とブロック、  
連協幹事自治体の教育長、その他出席を希望する教育長
- 出席者：174名
- 主な内容：
- ・講演Ⅰ：「学校教育を本質から問い直す」  
東京都千代田区立麴町中学校校長 工藤 勇一 氏
  - ・講演Ⅱ：「子供達の健やかな脳発達のために～アウトドア育脳のすすめ～」  
東北大学加齢医学研究所 機能画像医学研究分野  
教授 瀧 靖之 氏
  - ・事例発表
  - ・文部科学省の取り組み
  - ・B & G 全国教育長会議「提言」

◆全国教育長会議出席者内訳

区分	役職等	出席者人数
海洋センター関係	教育長	126名
	代理	2名
	随行	31名
来 賓	財団理事・評議員・関連団体	9名
報 道	報道関係	6名
合 計		174名

(3) ブロック連絡協議会総会

ブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団役員およびブロック担当者が出席し、財団事業の説明ほか海洋センター表彰等を行った。

- 時 期：2019年4月25日(木)～5月30日（木）（各1日）
- 場 所：全国10ブロックの幹事市町村等10ヵ所
- 出席者：454センター・921名（うち自治体執行部202名）

7. B & Gプランの推進に関わる調査研究等の活動

B & Gプランのさらなる推進を図るため、事業の改善や質的向上を目的とした各種検証を行うとともに、新規事業創出に向けた調査研究等を行った。

### (1) 事業成果の検証

2018年度の財団事業実績、海洋センター・海洋クラブの運営・活動状況分析などを記載した「活動実績報告書」を発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体等に配付し、財団事業に対する理解促進を図った。

### (2) 地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用に関する調査研究

※日本財団助成事業

財団職員による事業提案会等を通じて、地域活性化に向けた海洋センターの新たな活用を拡大するため、「中高年の居場所づくりを通じた青少年教育活動の推進」に関する体験会等をパイロット実施した。プログラム内容や参加者の満足度、高齢者福祉・健康など自治体施策との関連性等を調査し、今後、財団事業としての推進や、関連事業の創出などを行うこととした。

### (3) 時代に即した新たな事業の創出に関する調査

「青少年の健全育成推進計画」の効果的な推進を図るため、各事業の検証を行うとともに、2020年度からの3ヵ年計画「地域力の活用計画」を策定した。

## 8. 広報活動

### (1) パブリシティ活動

財団や海洋センター・海洋クラブの活動を広く社会へ周知するため、マスメディアによる報道を通じた広報活動を行った。

#### 【マスメディアの掲載・放映数】

新聞	雑誌	テレビ	ウェブ
102紙208回	5誌5回	29局30回	45媒体110回

### (2) インターネットによる情報発信

財団公式HPとSNSを活用し、財団の活動や全国のB&G海洋センター・クラブの情報を発信した。

#### 【情報発信数】

媒体名	アクセス数
財団公式ホームページ	2,672,303件
フェイスブック	242,036件
ツイッター	264,948件
インスタグラム	48,963件

### (3) 海洋センター・海洋クラブの広報活動支援

指導者、自治体と連携を図り、海洋センター・海洋クラブの広報活動を支援助言すると共に、壁新聞「アンドリーニュース」の発行、B&G オリジナルグッズの作製を行った。

### (4) コンクールの実施

海洋センター・クラブの魅力を自ら発信するコンクールとして「B&G PR 大賞」を実施。

海洋センター・クラブの魅力を 10 秒程度の映像で PR する「おいでよ！海洋センターの部」、館内装飾やサービスで利用者に心地よい空間を提供する「おもてなしの部」、お題に合わせた失敗体験を詠む「やらかし川柳の部」の 3 部門を募集し、審査委員会において各部門の最優秀賞・優秀賞計 26 点を選定した。

「2019 B&G PR 大賞」審査委員会

日 時：2020 年 1 月 17 日（金）

場 所：財団会議室

応募総数：3,957 点

（内訳）おいでよ！海洋センターの部	81 点
おもてなしの部	101 点
やらかし川柳の部	3,775 点

## 9. 災害等支援事業

「平成 30 年 7 月豪雨」で被害を受けた岡山県内の子ども達やその家族を応援することを目的に「がんばろう岡山！ B & G 海遊び・マリンスポーツ体験」を開催。全国の B&G 海洋センターから寄せられた支援金を活用して、ビーチレクリエーションやマリンスポーツの体験会を実施した。

時 期：2019 年 8 月 25 日（日）

場 所：岡山県浅口市 三郎海岸

参加者：104 名

## 10. 寄付金等事業

財団や海洋センターの活動を継続的に実施するため、広く社会一般へ寄付金の募集を行った。集まった寄付金は、児童養護施設の子供たちやひとり親家庭を対象とした海洋性レクリエーション体験会などに活用した。

## 【収益事業】

### 1. 土地賃貸事業

旧東京海洋センターの跡地（江東区深川）を「ホームセンターコーナン」に賃貸し、安定的な賃貸料収入を得た。この収入は当財団の公益目的事業及び管理運営業務等の経費支出に活用した。

別表 1

## 役員名簿

(2020年3月31日現在)

役職	氏名	現職
会長	前田 康吉	北海道 滝川市長
理事長	菅原 悟志	
常務理事	古山 透	
理事	青山 節児	岐阜県 中津川市長
〃	佐野 慎輔	産経新聞社 客員論説委員
〃	中逸 博光	熊本県 長洲町長
〃	中江 有里	女優 脚本家 作家
〃	中村 真衣	シドニーオリンピック競泳 銀メダリスト
監事	大藪 卓也	大藪公認会計士事務所代表
〃	西本 克己	株式会社東京ビー・エム・シー 代表取締役社長

## 別表 2

## 評 議 員 名 簿

(2020年3月31日現在)

氏 名	現 職
議 長 小 高 幹 雄	BOAT RACE振興会 会長
岸 ユキ	女優・画家
工 藤 祐 直	B & G 全国指導者会 会長 青森県 南部町長
小 峯 力	中央大学 教授
谷 川 真 理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授
波多野 茂 丸	全国モーターボート競走施行者協議会 会長 福岡県 芦屋町長

## 別表 3

専 門 委 員 名 簿  
(海洋センター施設整備委員)

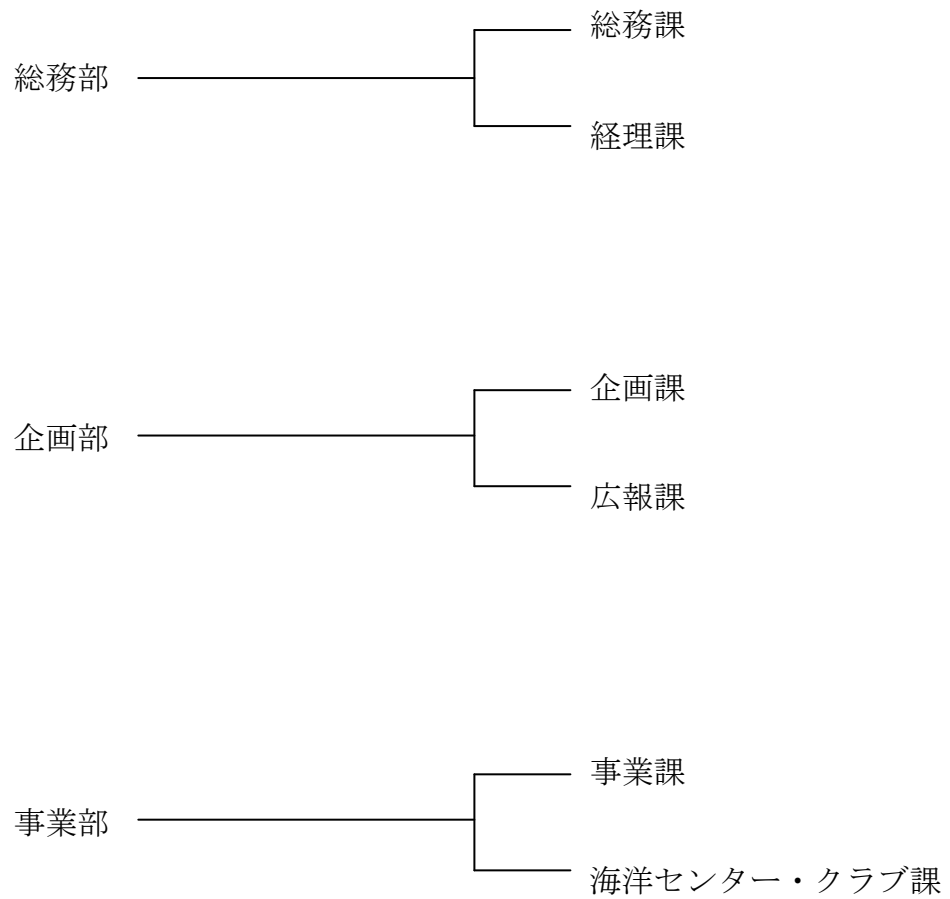
(2020年3月31日現在)

	氏 名	現 職
委員長	田久保 雅 己	日本マリッジジャーナリスト会議 (MJC) 会長 株式会社舵社 常務取締役編集局長
副委員長	小 林 元 一	株式会社松田平田設計 総合設計室 技術監理部部長
委 員	岩 崎 恭 子	バルセロナオリンピック 競泳 金メダリスト
〃	遠 藤 聡	株式会社日本海事新聞社 常務取締役
〃	田 村 祐 司	国立大学法人東京海洋大学大学院 准教授
〃	吉 田 義 朗	一般社団法人 日本障害者カヌー協会 会長

別表 4

事務局 機 構 図

2020年3月31日現在





## 2019 年度事業報告 附属明細書

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020 年 5 月

公益財団法人

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

前記のとおり相違ありません。

2020年5月25日

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

会 長                    前 田                    康 吉

2019年度の事業報告書を監査したところ適正かつ正確であることを認めます。

監 事                    大 藪                    卓 也

監 事                    西 本                    克 己